

## 令和4年度授業改善推進プラン

清瀬市立芝山小学校 第6学年

	授業における課題や学力調査資料から見えた課題	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	・自分の考えなどを文章を書くときに、構成を整えて書くことが苦手な児童が多い。	・「初め・中・終わり」を意識させるだけでなく、「起承転結」や様々な構成があることを理解させる。 ・この文章は、誰にどんなことを伝えたいのかという他者意識を強くもたせてから書くよう指導していく。	・様々な構成の文章や友達の文章などを読むことを通して、理解するだけでなく感想文や卒業文集作成などに活かすことができた。 ・他者意識をもち、文章を書くことができるようになってきた。
社会	・政治、国際分野において、時事問題に対して知識がなく、興味をもてない児童がいる。 ・歴史分野において、時代の大きな流れを理解できていない児童がいる。	・新聞やニュースなどで話題となっている事柄を授業だけでなく日常に取り上げ、時事問題に興味をもてるようにする。 ・授業で取り上げる人物と事柄の一对一の知識ではなく、時代背景やなぜそのようなのかを考える授業展開にする。	・時事問題と社会科の学習をつなげたり、教科横断的に学んだりすることで力をつけることができた。 ・流れをつかむことができた児童がいる一方、知識のみに固執してしまう児童もいたため課題が残った。
算数	・問題に対して、どのようにして答えを導き出すのかを考えて立式する力が乏しい。	・過程を説明するにあたって、言葉だけでなく図や表、式を活用しながら思考の過程を提示できるような活動を増やす。 ・四則の意味を再度確認して、適切な立式ができるように指導していく。	・個人で考える時間、周囲に説明する時間、全体で確認する時間と分けることで、様々な思考の過程をもたせることができた。 ・試験などの結果から、問題文を個人で読み、立式する活動が不十分であったことが考えられた。
理科	・問題と、実験の結果を関連付けながら考察をすることが苦手な児童が多い。	・何のために行う実験なのか、実験方法を考える段階から意識させる。 ・問題提起から、考察までの道のりが視覚的に意識できるような教材を準備する。	・教材を工夫したことで、多くの児童に、問題と結果、考察を関連付けて考えさせることができた。 ・実験の効果が見えずらいことや、児童が本当に望む実験を準備することができないことがあった。
音楽	・曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって表現をするための技能の育成 ・曲想及びその変化と音楽の構造との関わりについて理解し、曲全体を味わって聴く能力の育成。	・どのように演奏したいか思いや意図をもたせるような言葉かけをする。 ・様々な楽器を取り入れ、学習形態を工夫し、各声部や全体の響き、伴奏を聴いて合わせる技能を高める。 ・感じ取った曲想などを基にし、それを生み出している音楽の構造との関わりを考えさせる。	・音楽会を通して思いや意図をもっと演奏する力、全体の響きや伴奏を聴いて合わせる技能が高まった。心を合わせて演奏する楽しさを味わわせることができた。 ・音楽の要素など聴かせたいことを明確にすることで、楽曲のよさやおもしろさに気付き味わって聴ける児童が増えた。
図画工作	・道具や材料などの扱い方を習得し、用途に応じて自分なりに使い分けられる力の育成 ・題材の意図やねらいを理解して、自分なりの発想で表現を工夫しようとする力の育成	・既習の絵の具やパスなどの描画材、電動糸のこぎりやペンチなどの道具が複合的に扱える題材を取り入れる。 ・題材の意図やねらいの理解をより深めるために、思いを話し合っ共有したり、途中経過でアイデアを交換したりする時間をとる。	・表現を工夫する為の情報交換の時間をとることで、自分の考えや表現が深まり自信をもてるようになった児童が増えた。 ・自身の生活体験や、家庭へ協力を依頼することで、学習内容の有用性を実感させることができた。 ・短期間での連携になってしまった為、継続して学習内容の有用性を意識させる取り組みが必要。
家庭	・学習内容を実践につなげられる機会が少なくなりました。	・家庭との連携を図りながら、学習内容が実際にどのように生きていくのか実感させるような指導方法をとっていく。	・自身で補助運動を取り入れることができた時間もあったが、全時間通して行うことができなかった。 ・補助運動を取り入れられた授業に関しては、技能が伸びた児童が見られた。
体育	・運動経験の乏しさから、基本的技能が習得されておらず、ゲームが成立しない。	・主運動に入る前の補助運動で基本的技能を身に付けられるような動きを多く取り入れるようにする。	・単元ごとに学習のまとめとしてスピーチを行うことで、場面に合った外国語の表現を知ることができた。 ・自分の思いや考えを英語を活用して表現する力が育った。
外国語	・様々な表現方法を活用する力の育成	・ALTをうまく活用し、教科書にない単語等も広く児童に提示できるようにする。	・教材を通して、自身の生活体験と結びつけた振り返りを考えさせることができた。 ・価値項目から、真に問われている事柄からずれてしまう児童もいたため、振り返りの視点をさらに整理して伝えていく。
道徳	・学習している内容と、自分の経験をつなぎ合わせる際に考える内容がずれてしまうことがある。	・本時で学ぶべき価値項目をその都度意識できるよう投げかけていくだけでなく、振り返りを行う前に、改めてその時間の学習ではどのような内容について考えを深めてほしいのかを明示してから行わせる。	・情報発信の立場として、情報の真偽や情報ソース、表現方法の工夫をさせられた。 ・表現方法等に意識がさかれ、その内容を深めていく考えが薄れさせてしまった為、適宜様子をうかがう。
総合的な学習の時間	・情報収集し、自分でまとめる活動をする際に、インターネットの情報や図書資料の情報を引用するのではなく、そのまま書き写してしまう児童が一定数いる。	・国語の学習などを振り返り、引用するときの決まりを思い出させるとともに、情報発信者としての視点をしっかりとらせ、自ら文章を作っていくという指導を重点的に行っていく。	